ルールからみた相撲の世界
—相撲研究の一つの視点—

The world of sumo as seen from the rule
—One point of view of sumo research—

大熊 孝夫[1]
[1]大妻女子大学大学院人間文化研究科現代社会研究専攻

Takao Okuma[1]
[1]Studies in Contemporary Society, Graduate School of Studies in Human Culture, Otsuma Women's University
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：相撲，ルール，スポーツ，儀礼，芸能
Key words：Sumo, Rule, Sports, Ritual, Entertainment

抄録

相撲の世界は，さまざまなルールによって支えられている．相撲の世界のルールというと，土俵上での力士と力士の取り組みに関するルールを真っ先に想い浮かべるであろう．しかし，相撲界を支えるルールは力士の競技活動，つまり，取り組みのためのルールだけではない．年間の本場所開催に関するルールもあれば，力士や親方の報酬に関するルール，懸賞金の分配に関するルールもある．あるいは，横綱の土俵入りに関するルールもあり，改めてルールに着目してみると，相撲の世界は，多種多様なルールに支えられていることがわかる．

そこで本研究は，相撲界に存在するルールというものを４つの類型に分類し，そのそれぞれの類型に関して，そこに存在するルールの現実的な態様を分析している．

１．まえがき

相撲はわが国の国技として位置づけられ，今日では年に６回の本場所を開催し国内外の人々に楽しまれている．この相撲の学問的研究となると，一部の専門的な研究論文はいくつか存在するが，相撲界全体を視野に据えた研究は，これまでのところ殆ど見当たらないというのが現状である．

そこで筆者は，相撲界全体を把握するに際して，そこに内在するルールというものに着目することとした．改めてルールに着目すると，大相撲のなかにもさまざまなルールがあることがわかる．取り組みに関するルール，親方制度に関するルールや，そもそも相撲界に入門する際のルール等々，多種多様なルールに取り囲まれて，今の相撲界が成立っていることがわかるのである．

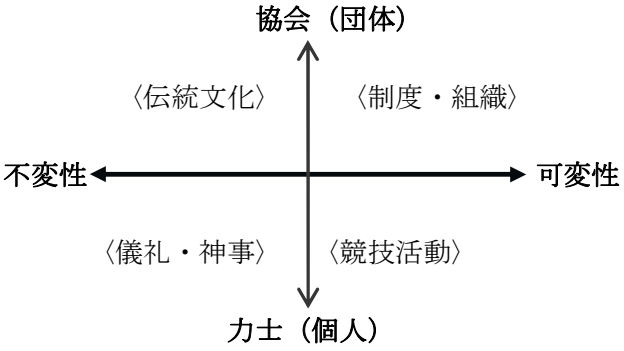
本研究では，相撲の世界を，「伝統文化としての相撲」，「制度・組織（興行）としての相撲」，「スポーツとしての相撲」，「神事としての相撲」，この４つの分野に区分し，それぞれの分野にみられるルールの態様（あり方）に着目すれば，相撲界全体の把握が可能にあるのではないかと考えた．以下，この４つの分野におけるルールの概要について検討し，今後の研究の一助としたい．

２．相撲界を支える４つのルール領域

さて上に，相撲の世界を４つの分野に区分したが，この分類は，相撲界に内在するルールそれ自体の特質を，縦軸と横軸にクロスさせることによって浮かび上がってきたものである．

第１図に示すように，先ず，ルールには何時の時代にも変わらない「不変的なルール」と，理由によっては変更することも可能な「可変的なルール」がある．そこで，「不変性」と「可変性」を両極とする特質を横軸に置く．さらにもう一つ，そのルールが「協会（団体）」に関わる場合と，「力士（個人）」に関わる場合とがある．

第１図　相撲界を支えるルールの４つの領域



本場所を１年６場所 15 日間開催する現状のあり様は，「協会（団体）」に属する「可変的」なルールであり，実際の取り組みにおける決まり手に関するルールは，「力士（個人）」に関わる「可変的」なルールとみることができる．したがって，団体と個人を両極とする軸心を縦軸に置くと，第１図に見るように，４つのボックスが出来上がる．図の左側の「伝統文化」や「儀礼・神事」に属するルールは，後に見るように，「不変的」なルールである場合が多い．

以下，この４つの領域におけるさまざまなルールの態様について，その概要を簡潔にまとめ分析の方向性を明らかにしておきたい．

３．「伝統文化（芸能）としての相撲」を支えるルール

相撲がわが国の伝統文化（芸能）であることに否を唱える人はいない．本稿では，伝統文化としての相撲を支えるルールとして，次の５つの問題を論じることとした．

①相撲に関する歴史的記録をめぐって
②戦国から江戸時代にかけての相撲
③力士の日常生活に根付く伝統
④「国技館」の設置と「国技」としての相撲
⑤外国人力士の登場

相撲は，日本文化の一つ，日本の伝統文化と言われるが，そもそも相撲のルーツとしては，どのように考えられているのであろうか．いつごろから，日本の伝統文化として考えられるようになったのであろうか．この領域においては，「伝統文化」であるゆえに，それを支えるルールは「不変的」であり，協会の屋台骨に関わるルールが多い．

また，相撲は，「日本の国技」とされるが，この考え方は，いつ，どこで，どのようにして国技と位置付けられたのか．こうした問題のほか，相撲はスポーツなのか，スポーツではないのか．この種の議論も，かなり昔から行われているが，その決着はまだついていない．そこで，相撲はスポーツの要素のみならず，反スポーツ的側面も多くもっており，反スポーツ的側面として指摘される内容を見ていくと，まさに，その部分は，相撲を伝統的文化として位置付ける根拠と重なってくるように思われる．その経緯をここで明らかにする．

４．制度・組織（興行）を支えるルール

ここでは，相撲協会という組織を維持するためのルールとして，次の５つの事柄について検討する．

①日本相撲協会の成立と発展
②相撲興行（本場所）の仕組み
③親方制度の問題点
④新弟子の合格基準について
⑤力士の待遇条件に関するルール

すなわち，今日，一年に６場所の相撲興行の開催を取り仕切る団体，日本相撲協会は，いつごろ，どのような考え方に基づいて成立したのであろうか．相撲協会は，2014 年から，一般財団法人から公益財団法人に衣替えしたが，そこにはどのような背景，つまりは，ルールの変更があったのであろうか．また，相撲協会が主催する興行（本場所）の仕組みは，改めて考えてみると，どのような仕組みの下行われているのであろうか．新弟子の合格基準はどのようになっているのであろうか．そして，力士の待遇条件（給与体系）は，どのようになっているのか，競技に勝った場合に手にする懸賞金なども含めて，これらは，相撲協会を実際に支えている諸々のルールであり，時と場合によっては変更が加えられるという意味で「可変的」とみなすことができる．ここでは，それらの具体的な考え方について検討する．

５．競技活動（スポーツ）を支えるルール

本節では，競技活動を支えるルールとして，次の５つの問題を検討する．

①相撲の決まり手と禁じ手・反則
②決まり手の時代的な変容
③昇進に関わるルール
④八百長問題について
⑤相撲の反スポーツ的側面

相撲の決まり手や反則などの問題は，いうまで

もなく，力士が実際に相撲を取る場合の競技活動を支えるルールに属すものである．その決まり手は，最近，種類が増えてきているようである．なぜ，決まり手は増えてきたのか，決まり手の時代的な変容はどのように捉えることができるのか．そしてまた，しばしば世間を騒がせる八百長問題や昇進に関わる諸問題等々，この領域で取り上げるべき課題は多い．

６．　儀礼・神事（宗教）を支えるルール

ここでは，儀礼行動を支えるルールとして，次の５つの問題を論じる．

①横綱の土俵入りの型と関取の土俵入りについて
②弓取式について
③四本柱の撤去とつり屋根の登場
④土俵の歴史と変遷について
⑤神事としての相撲の世界

相撲は，すでに指摘したように，日本の伝統文化であるという見方に異存はない．その伝統文化は，多くの場合，力士の儀礼的な行動や，神事に参画する，つまりは，力士が神事を担う行動によって，実際に成り立っている．横綱の土俵入りも，この領域に属する神事の典型的な一つである．さらに，その日結びの一番が終了後に行われる弓取式もまた，神事としての相撲を日常的に体験する一つの事例とみることができる．これらの特質について今後考えることとしたい．

７．　おわりに

以上，本年度は，修士論文を作成するために，全体の骨組みとして，相撲の世界を４つの分野にわけ，そこでの多種多様なルールのあり方から把握する視点を確立し，具体的に，４分野に内在する種々のルールの個別的事項を確認することに力点を置いてきた．もちろん，その一部については，本論を展開してきたが，今年度においては，相撲の世界を全体的に捉えるための視点の確立の部分に焦点を合わせて報告しておくこととしたい．

付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所大学院生研究助成（DB2603）の助成を受けたものである．

参考文献

[1]宇治谷猛　1988　『全現代語訳日本書紀（上）』講談社学術文庫
[2]内館牧子　2006　『女はなぜ土俵にあがれないのか』　幻冬舎
[3]生島淳　2003　『スポーツルールはなぜ不公平なのか』　新潮選書
[4]風見明　2002　『相撲，国技となる』　大修館書店
[5]多木浩二　1995　『スポーツを考える』　ちくま新書
[6]中島隆信　2008　『大相撲の経済学』　ちくま文庫
[7]中村民雄　2007　『今，なぜ武道か』　日本武道館出版
[8]西村秀樹　2012　『角界モラル考』　不昧堂出版
[9]新田一郎　2010　『相撲の歴史』　講談社学術文庫
[10]根間弘海　2013　『大相撲の歴史に見る秘話とその検証』　専修大学出版局
[11]舞の海秀平　2011　『土俵の矛盾』　日本実業之日本社
[12]舞の海秀平　2015　『なぜ，日本人は横綱になれないのか』　ワック株式会社
[13]宮崎里司　2001　『外国人力士はなぜ日本語がうまいのか』　明治書院
[14]武蔵川喜偉　1974　『武蔵川回顧録』　ベースボール・マガジン
[15]守能信次　1985　『スポーツとルールの社会学』　名古屋大学出版会

Abstract

Sumo world is supported by a variety of rules. And say sumo world of rules, would think of the rules related to efforts on the playing field. But, not only that. And rules on the holding of this location, there are also rules on the master. Therefore, the present study, the rules that make up the sumo world, divided into four categories, for each of the categories, analyzes the realistic aspect of the rules inherent in there.

（受付日：2016 年 2 月 6 日，受理日：2016 年 3 月 23 日）

大熊　孝夫（おおくま　たかお）
現職：大妻女子大学大学院人間文化研究科現代社会研究専攻修士課程